

# 成人先天性心疾患の未来

企画：住友直方

(埼玉医科大学国際医療センター  
小児心臓科)



## HEART's Selection

複雑先天性心疾患はかつてはなかなか救命が難しい疾患であったが、近年の外科治療、カテーテルインターベンション、心不全、肺高血圧に対する薬物治療の進歩により、90%近くが成人に達するようになり、生存率は飛躍的に向上している。また、外科手術後に発生した弁や導管狭窄、弁閉鎖不全、遺残病変、小児期に見逃された先天性心疾患が発見された場合、どのように治療するのが適切なのかなど、小児科、循環器科、心臓血管外科を含めた方針の決定が必要になる。術後の時間経過に伴い、心不全や不整脈の発生頻度も増加するため、薬剤、デバイス植込み、カテーテルアブレーション、再手術、心臓移植などの治療が必要になることもある。それに伴い、成人に達した先天性心疾患に、虚血性心疾患、糖尿病、高血圧などの成人病を合併することも多くなり、もはや小児科や循環器科だけの対応では管理が困難な分野になりつつある。

岡山大学の赤木禎治先生に本邦の成人先天性心疾患の現状、東京大学の八尾厚史先生に成人先天性心疾患の肺高血圧に対する Treat and Repair、私が成人先天性心疾患に対する心房中隔穿刺、聖隷浜松病院の宮崎文先生に成人先天性心疾患の突然死予防、榊原記念病院の矢崎諭先生に成人先天性心疾患に対するカテーテルインターベンションの展望、岡山大学の笠原真悟先生に成人先天性心疾患における外科治療と題して執筆をお願いした。本邦の成人先天性心疾患医療の現状と今後を考える一助になれば幸いである。